

1914年（大正3年）創業の老舗企業で、自動車用・住宅設備用ホースおよび産業用配管の製造を手がける専門メーカー。独自の技術力を活かし、耐久性と機能性に優れた製品を国内外に提供。環境への取組にも積極的で、ISO14001認証取得や温室効果ガス削減、省エネ、再生可能エネルギー活用などを通じて、持続可能な社会の実現に貢献。

ホース・配管部品メーカー  
(自動車・二輪・住宅設備向け)

事業者概要 (2024年12月現在)  
代表者 代表取締役 社長執行役員 曽我 浩之  
工場所在地 兵庫県姫路市別所町佐土1118番地  
電話番号 (079) 252-4151(代)  
従業員数 359名(連結2,379名)  
主な事業内容 自動車用各種ホース、住宅関連ホース、同部品等の製造販売  
URL <https://www.nichirin.co.jp>

## 取組の内容

### 2050年GHG排出量のネットゼロを目指す

- サステナビリティ基本方針、環境方針を挙げ、グループ全体で排出量削減に取組む
- 2050年にバリューチェーン全体での排出量をネットゼロにする目標を掲げ、2024年8月にSBTi認定を取得
- 姫路工場全体で、LED照明への切り替え、太陽光発電の導入、再エネ由来電力の購入、発電設備の断熱、エアリークの削減とコンプレッサの集中管理を実施



姫路工場に設置した太陽光パネル

### 工程改善でGHG削減

- 副資材の材質変更で半永久的な使用が可能に  
購入費：55%削減 廃却量：53%削減  
CO<sub>2</sub>削減効果：約55%削減
- 工程内で使用する冷却装置を冷却器メーカーと共に省エネタイプのものを開発し、自社で冷却装置を製造  
電力使用量：60%削減 CO<sub>2</sub>削減効果：60%削減  
設備購入費用：65%削減
- 蒸気用圧力容器の排気を常時排気から間欠排気に変更し無駄な排気を削減  
LNG使用量（購入量）：60%削減  
CO<sub>2</sub>削減効果：約60%削減

→ 姫路工場において、2024年度のScope1・2の排出量は対2013年比で60%以上削減

→ マザー工場である姫路工場の取組を海外工場にも展開することで、グループ全体で排出量を削減

In Step with the Future

# NICHIRIN

#製造業 #カーボンニュートラル  
#GX製品開発  
#生産性向上・職場環境改善が脱炭素に繋がる

### 脱炭素に貢献する技術

- アルミ金具をガス式ろう付からレーザー溶接に変える  
年間CO<sub>2</sub>排出量を約95%削減
- 工程設備の駆動源を油圧式ポンプからサーボモーターに変える  
年間CO<sub>2</sub>排出量を約90%削減
- 電気自動車の熱マネジメントシステム用樹脂配管を開発。従来のゴムホースと金属パイプに比べ部品の軽量化と冷媒透過量低減などのメリットがあり、今後GX製品としての普及が期待される

→ 新たな技術の活用、製品の開発にも積極的に取組み脱炭素に貢献



エアコンシステム用樹脂配管

## 社内体制による取組

ニチリンでは、カーボンニュートラル(CN)およびグリーントランステンフォーメーション(GX)を経営戦略の一環として位置づけ、2022年に「サステナビリティ推進室」を設置。技術部・製造部・生産技術部など各部門が連携し、製品設計から設備投資、エネルギー管理まで多面的な取組を推進。社内では、GX取組事例の共有や社内報による啓発活動も行い、全社的な意識醸成を図る。



2024年7月に完成した NICHIRIN WORKSHOP

人と協働するロボットの研究開発拠点として、ロボット組立作業場・トレーニングルーム、安全道場のほか、危機管理センター機能を備える。「建築物省エネルギー性能表示制度; BELS（ベルス）」で最高位の5つ星評価を取得。ZEBを見据えた先進構築物として高断熱化・高効率な省エネルギー設備を備えた建築物である「ZEB Ready」を取得。

## 生産性向上、職場環境改善が脱炭素に繋がる

2050年のネットゼロ目標を達成するには、エネルギーインフラの見直しだけでなく、社員の気づきを起点とした排出量削減の取組が重要。こうした取組は、業務効率化や職場環境の改善とも親和性が高く、働きやすい職場づくりにもつながるため、若手社員が意見を出しやすい雰囲気づくりや、取組を評価する社内表彰制度を導入し、社員のモチベーション向上にも配慮して実施。

例えば、副資材の材質変更により半永久的な使用が可能となった事例は、副資材の廃棄量削減だけでなく、副資材の使用回数をカウントしていた作業を不要にすることに繋がった。また、冷却装置を冷却器メーカーと共に省エネタイプのものを開発し、自社で冷却装置を製造した事例では、工場内に排出されていた冷却器の廃熱も大幅に削減され、工場内の温度上昇の抑制にもつながり、夏場における工場勤務社員の職場環境改善にも大きく貢献。ニチリンは、排出量削減と職場環境改善の両輪で脱炭素化を推進。

## お客様の脱炭素に貢献する製品を積極的に提案

ニチリンでは、客先の脱炭素に資する製品・技術の提案を積極的に推進している。幹部層には「日頃から情報収集し、新しい取組を考えることが重要」という意識が根付いており、CNに向けた取組を検討する際にも、各部門が連携して収集した情報をもとに、製品開発や新技术の導入を進めている。また、若手社員の提案を上司が受け止める文化があり、脱炭素に貢献する新しい技術や製品開発に若手も積極的に参加。さらに、アルミ金具の接合技術や電動車両の拡大に伴う新たな配管ニーズに対応する軽量・高機能な配管製品等、新技术や新製品を客先への提案活動にも力を入れ、開発や環境配慮型素材の採用といった設計段階での環境負荷評価を通じて、持続可能なものづくりを追求している。

## 今後の取組

今後は、Scope3対応の強化をはじめ、サプライチェーン全体での排出量削減に取り組む方針。AI・IoTを活用したエネルギー管理の高度化や、さらなる海外拠点でのGX推進の横展開も視野に入れ、2050年にバリューチェーン全体でのGHG排出量ネットゼロの目標達成へ向け挑戦を続けている。